

毎年、戦争や核兵器のない平和な社会を求めて「ピースウィーク行動」に取り組んでいる皆さまをはじめ、関係者各位の御尽力に深く敬意を表します。

戦後70年以上が経過したいま、戦争を知らない若い世代に、平和を尊び、愛する心をはぐくむには、私たちが平和意識を普及・啓発することが大切です。

平塚市では、昭和60年12月に、「核兵器廃絶平和都市」を宣言して以来、「アイラブピース」を合言葉に平和推進事業を実施しています。今後さまざまな事業を通して、多くの方々が戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさに触れ、平和への想いを実感していただけるよう、努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多方面で厳しい状況が続いていますが、皆さまには力を合わせてこの難局を乗り越えられますよう、心から願っております。

最後に、このたびの街頭行動の御成功とご参集の皆さまの御健康と御活躍を祈念し、私からのメッセージといたします。

令和2年8月1日

平塚市長落合克宏

核兵器の兵絶と平和の実現を目指して、「ピースウィーク行動」に取り組まれている皆様に敬意を表します。

原爆投下、太平洋戦争終戦から今年で75年となります。しかし、今なお、世界は核兵器の脅威にさらされています。

秦野市では、昭和44年に市民憲章を制定し、第1文で「平和を愛する市民のまち、それは私たちの誇りです」と定め、昭和61年には恒久平和、核兵器の廃絶、非核三原則の堅持を柱とする「秦野市平和都市宣言」を制定し、平成19年に「日本比較都市宣言自治体協議会」、平成20年に「平和首長会議」にそれぞれ加盟し、平和を希求する自治体としての姿勢を内外に示しています。

また、改めて平和の大切さ、尊さを考え、語り合うため、平成20年に、毎年8月15日を秦野市独自の「平和の日」として定め、市民の平和への願いを未来に継承していくため、様々な平和事業を実施しています。

皆様の世界平和への願いが、核兵器の廃絶を実現するための現踏力となることを心からお祈り申し上げ、メッセージをさせていただきます。

令和2年8月1日

秦野市長 高橋昌和

ピースウィーク行動へのメッセージ

核兵器廃絶に向けた皆さまのご努力と熱意に心から敬意を表します。

終戦から75年目を迎え、戦争の記憶が遠ざかっていくなか、平和啓発活動には、多くの人々の平和を希求する思いが重要であることを強く感じております。

当市では、「伊勢原市平和都市宣言」の理念のもと、文明社会の壊滅をもたらすすべての核兵器の廃絶を求め、戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう、平和啓発事業に毎年取り組んでおります。

今後も、恒久平和の実現を願い、若い世代に平和の尊さを語り継ぐとともに、先人から受け継がれてきた大切な自然環境を次世代へ引き継いでいくための取り組みを進めてまいります。

伊勢原市長 高山松太郎

メッセージ

連合神奈川の皆様の核兵器廃絶に向けた「ピースウィーク行動」に、深く敬意を表します。

大磯町におきましては、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現を目指し、昭和61年6月に「大磯町核兵器廃絶平和宣言に関する決議」を行うとともに、本庁舎前広場に平和宣言記念碑を建立いたしました。

また、平成22年5月に「平和首長会議」へ加盟し、世界の多くの都市との連帯により、核兵器のない平和な世界が訪れることを強く願っております。

我が国は第二次世界大戦における大勢の尊い犠牲のうえにたって平和憲法を制定し、今日に至っております。

しかし、戦後長い年月が経過し、悲惨な戦時の記憶が風化しつつある中で、次代を担う子ども達に核兵器の恐ろしさと平和の尊さを伝えていくことが重要であると考えています。

今後も、非核・平和施策の推進に積極的に取り組み、平和意識の高揚に努めてまいり所存でございますので、皆様の御理解と御協力をいただきたく、お願い申し上げます。

結びに、連合神奈川の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、メッセージとさせていただきます。

令和2年6月25日

大磯町長中崎久雄

ピースウィーク行動へのメッセージ

核兵器廃絶と軍縮を求め、戦争のない平和な世界の実現を目指して活動されているピースウィーク行動を続けられる皆さまに深く敬意を表します。

今年は、広島・長崎に原爆が投下されてから、75年目を迎えますが、今日では、戦争を体験したことのない世代が国民の多くを占め、多くの方々の記憶から戦争や原爆の悲惨な出来事が次第に薄れてきております。

また、世界各地では、未だに紛争やテロ行為が絶えない現状です。さらに今年は新型コロナウイルス感染症の拡大により世界情勢が不安定な状況となり、真の平和への道のりは依然として険しいものであると言わざるを得ません。

唯一の被爆国である日本の果たすべき役割として、被爆についての悲惨な経験や、核兵器を使用することの恐ろしさを伝え続け、そして核兵器の廃絶に向けて世界中の人々に訴えていかなければならない義務があると認識しております。

二宮町でも、昭和20年8月5日に駅周辺において米軍機の機銃掃射を受け、尊いいのちが犠牲となり、昭和56年にいのちの尊さと平和への願いを込めて「ガラスのうさぎ像」が多くの皆様のご協力により建立されました。毎年8月には、全国より平和への祈りが込められた数万羽の折り鶴が届き、像に飾られ、平和の象徴となっています。

最後になりますが、このピースウィーク行動にご参加の皆様のますますのご活躍を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

令和2年6月22日

二宮町長 村田邦子